

(様式)

「ニホンウナギの生息地保全の考え方(案)」への意見

氏名 (団体の場合は、団体名及びその代表者名) :

(公財) 日本生態系協会 会長 池谷奉文 (いけやほうぶん) ※団体としての意見

住所 : 東京都豊島区西池袋2-30-20音羽ビル

電話番号 : 03-5951-0244

意見 1

【該当箇所】 第3章、2、(2) 横方向のつながり P.11

該当部分文章 :

(2) 横方向のつながり

水田とその水路は、河川周辺の開発とともに減少した、沼地や三日月湖等が広がる氾濫原湿地の代替として、多くの水生生物が利用してきた。聞き取り調査によって、過去に水田や水路をウナギが利用していたことが確認されている(環境省 2016a)。

【提出意見】 「水田とその水路は、河川周辺の開発とともに減少した、沼地や三日月湖等が広がる氾濫原湿地を一定程度代替するものとして、多くの水生生物が利用してきた。」と加筆修正する。

意見内容 :

人工的に整備された「水田とその水路」が、自然に形成された「沼地や三日月湖等が広がる氾濫原湿地」の有する生物生息環境提供機能を代替する度合いは限られます。相当程度の代替性があることが証明されているかのようにも読める現在の表現は、読者に誤解を与えるおそれがあります。このため【提出意見】に書かせていただきましたような加筆修正が必要と考えます。

意見 2

【該当箇所】全体

該当部分文章：

「餌生物」（参考資料部分を含めて本案中13回使用されている）、「餌資源」（参考資料部分を含めて本案中4回使用されている）など「餌」という表現が使われている部分

【提出意見】「餌生物」、「餌資源」などの表現を「食物資源」「採食資源」などとする。

意見内容：

「餌生物」「餌資源」という用語が現在も多く使われていますが、「餌」とは基本的に「鳥獣虫魚を飼育し、または捕えるための食物」（広辞苑）であり、野生生物が自然界においてみずからの力で得る食物を指す用語として、適切とはいえません。「食物資源」という用語がよく見かけられるようになっており、【提出意見】に書かせていただきましたように「食物資源」、「採食資源」などの表現に変えることが適切です。
